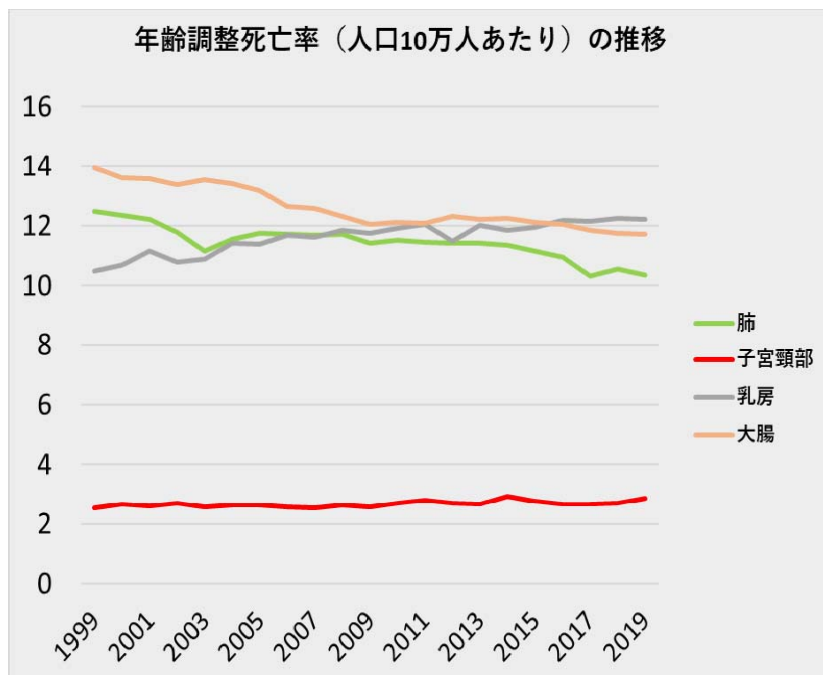


新聞もテレビも報じない
子宮頸がんワクチン
の
ほんとうの話

福祉と医療・現場と政策をつなぐ
えにしネット
<http://www.yuki-enishi.com/>

志の縁結び係 & 小間使い
おおくまゆきこ
略歴は最終ページに(^_-)-☆

このような基本的情報さえ、伝えないメディア



女性にとっては、乳癌、大腸癌肺がんの方がずっと怖い

子宮頸癌は、検診で
前癌病変で発見できる
珍しいがん

早期発見で赤ちゃんも産める

副反応疑い報告
(100万接種あたり)

HPV	355.8
4種混合	36.6
風疹	28.5
日本脳炎	23.9

えにしのHP(「ゆきえにし」でできます)。その中の
「子宮頸ガン予防？」ワクチンの部屋基礎的情報
<http://www.yuki-enishi.com/kusuri/keigan-00.html>

子宮頸がんがウイルスで起きることを、 たぶん、社説で初めて紹介

★★1984年9月28日の朝日新聞社説で、

「妻やごく親しい女性を子宮頸癌がんにかからせてしまう
物騒な男性がいるという研究結果が最近出た。
浮気な夫の妻ほど子宮頸がんにかかりやすいという。
この男性たちが、イボをつくるウイルスとして知られる
パピローマがウイルスを女性から女性へ運んでいるらしい」

家庭争議がおこらないように苦労して書いた社説

ただし、このウイルスは、空気感染ではうつりません

★★2010年2月26日

医師たちのML[fmj2][00649]でのやりとり……

私:「HPV ワクチンの早期承認と公費負担の実現を図る
「子宮頸ガン征圧をめざす専門家会議」がスタートし、
モナコの学会にジャーナリストたちが招待されました。
利益相反が胎まる兆しではないでしょうか？」

小児科医: 僕個人は、ワクチンしておけば確実に死ななかったのに、してなかった
ために死んだ子は、何10人と看取っています。一方、ワクチンで障害を受けたと思
われる 子も数人、障害者の専門病院で対応したことがあります。数でいうと死んだ
子のほうが、障害を受けた子より多いかな？

私: ご経験になっている感染症と違い、
子宮頸がんは、早期発見・早期治療で死を免れることができます。
「ワクチンしておけば確実に死ななかったのに、してなかったために死んだ」
という種類の感染症と、この「ワクチン」は、
事情が違うと思います。

毎日新聞の月1回の連続コラム

「私の社会保障論」で検診の大切さを

2013.4.10

「大切に育てた娘が、注腸で癌も悪化して、痛みにもがいて、とんぱんぱんになる。顔を歪めて、呻く娘。ゴメンネと私は言い続けている。あなたを将来ガンにさせたくなかった。その代償があまりにも大きい」

東京都杉並区から中学入学お祝いとして子宮頸がんワクチン接種を知らされ、娘に勧められてしまった母が痛みの気持ちをこめてつづる「みみりん」のさやきというブログの二部です。

この少女だけではありませんが、「娘そのもの」のために、ある日を境に、隣にあげられたサカナのようにいれなくなる。痛みが体のあちこちを移動する。病院を訪ね歩いて「精神的なもので」といわれて帰る。そんな経験をした家族たちがインターネットで検索して、このブログにたどりつき、あまりに似た経験に驚き、3月26日に「全国子宮頸がんワクチン被害者連絡会」を結成されました。

母の手いっばいの家族たちをさやきと、首都圏の市議、区議が検診の会をへり、日野

くらしの
明日

受けやすい検診の確立を

子宮頸がんワクチン被害

私の社会保障論

大熊 由紀子 国際医療福祉大学大学院教授

市議の堀田和恵さんが事務局長と連絡先を引き受けてました。電話室(03-2-594-183)が公開されると「わが子も受けてはいないか」と、全国から電話が殺到しています。

「子宮頸がんは死を招いたり、子宮を摘出したことになるという怖い病気だが、ワクチンで防げるという5万円と高いが、期日までには受けられれば無料といわれ、それならわが子に受けさせよう」と喜んでしまったのです。この親たちは驚きます。

厚生労働省に設けられた専門家の検討会でも先日、2億の子宮頸がんワクチンの副反応が、インフルエンザワクチンの3倍と20倍、重篤な副反応は52倍と24倍にのぼると報告されました。にもかかわらず、このワクチンを国の定期接種とする決が3月末、国会で成立しました。

子宮頸がんは、検診で早期発見すれば命も子宮も失わなくてすみます。たゞ、日本のように、検診受診の前で足を広げねばならないことの多い検診では、女性に検診をためらい、検診率は20%にとどまっています。80%と高い英国では、訓練を受けた看護師が、診療所の普通の人の上で実施しています。

このような安全で確実な検診方法を検討することなく、また、説明もなく女たちに接種するのは中止すべきだと書きます。このワクチンの公的支援が停止した時、厚労省の世間は「長期的な効果や副作用の情報が十分ではない」「効果を過信して子宮がん検診を受けなくなった大変」と騒ぎを囃らしてしました。それが、政治主導と社会的なキャンペーンの中で押し切られたのでした。

副作用と被害の違いは、どんな薬にも副作用(副反応)はあるが、効果が不利益を上回れば、それに勝るほどの利益がなければ、受け入れて治療や予防に使うことになる。薬害は、利益と不利益を比較する科学的データが曲げられたり、副作用情報が増えたりした結果、被害が拡大すること。副作用は薬が起す。副作用は人が起す。

このコラムを書いたのは 子宮頸がん検診は 「ワクチン」と違って

安全で、予防効果が実証されている

◆がんになる前の「前がん病変」の段階で見つけることができる、とても珍しい検診

◆すでに感染した人も有効

→ワクチンは、すでに感染した人には無効

◆すべてのHPVウイルス型に有効

◆副反応も副作用も起きない

◆早期発見・早期治療すれば死を避けられるどころか、赤ちゃんも産める

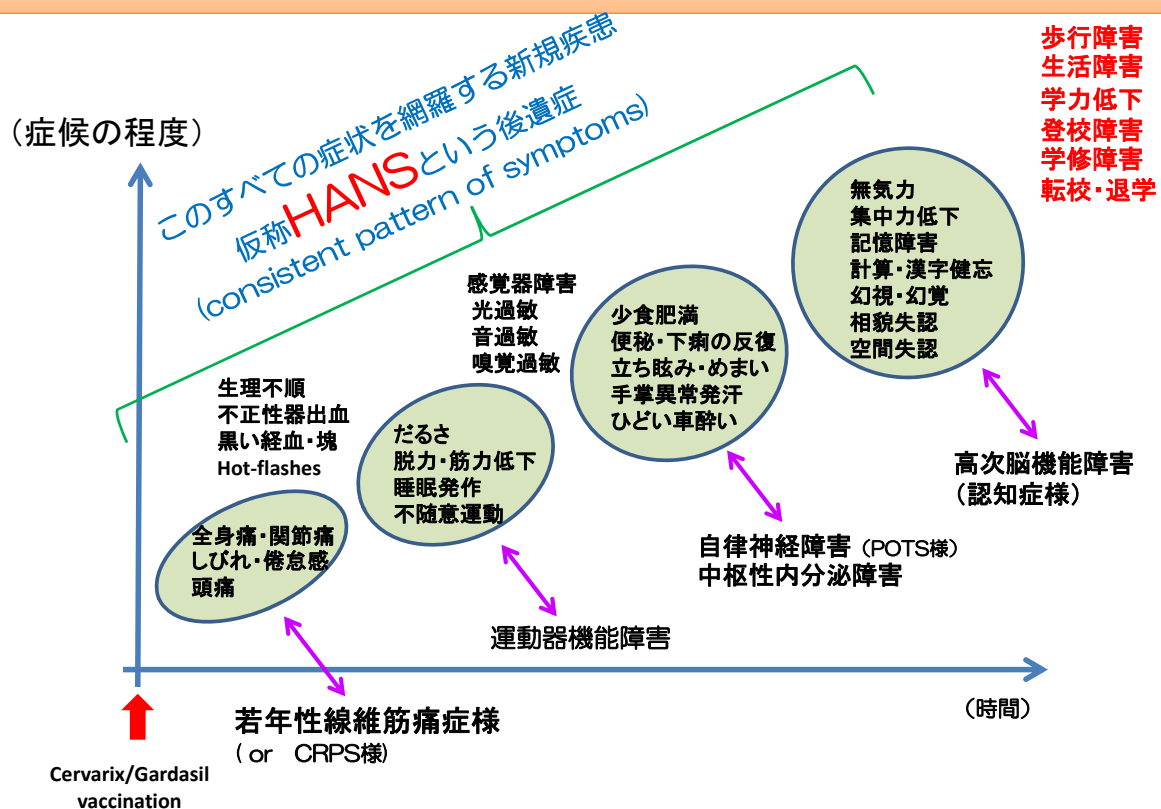
◆◆◆にもかかわらず、産婦人科医も厚生労働省も消極的。なぜ?

連載は『誇り・味方・居場所私の社会保障論』
というタイトルで、ライフサポート社から、いま3刷

女性が受けやすいように イギリスでは女性の看護師が普通のベッドで検診 BBCのスタジオで紹介

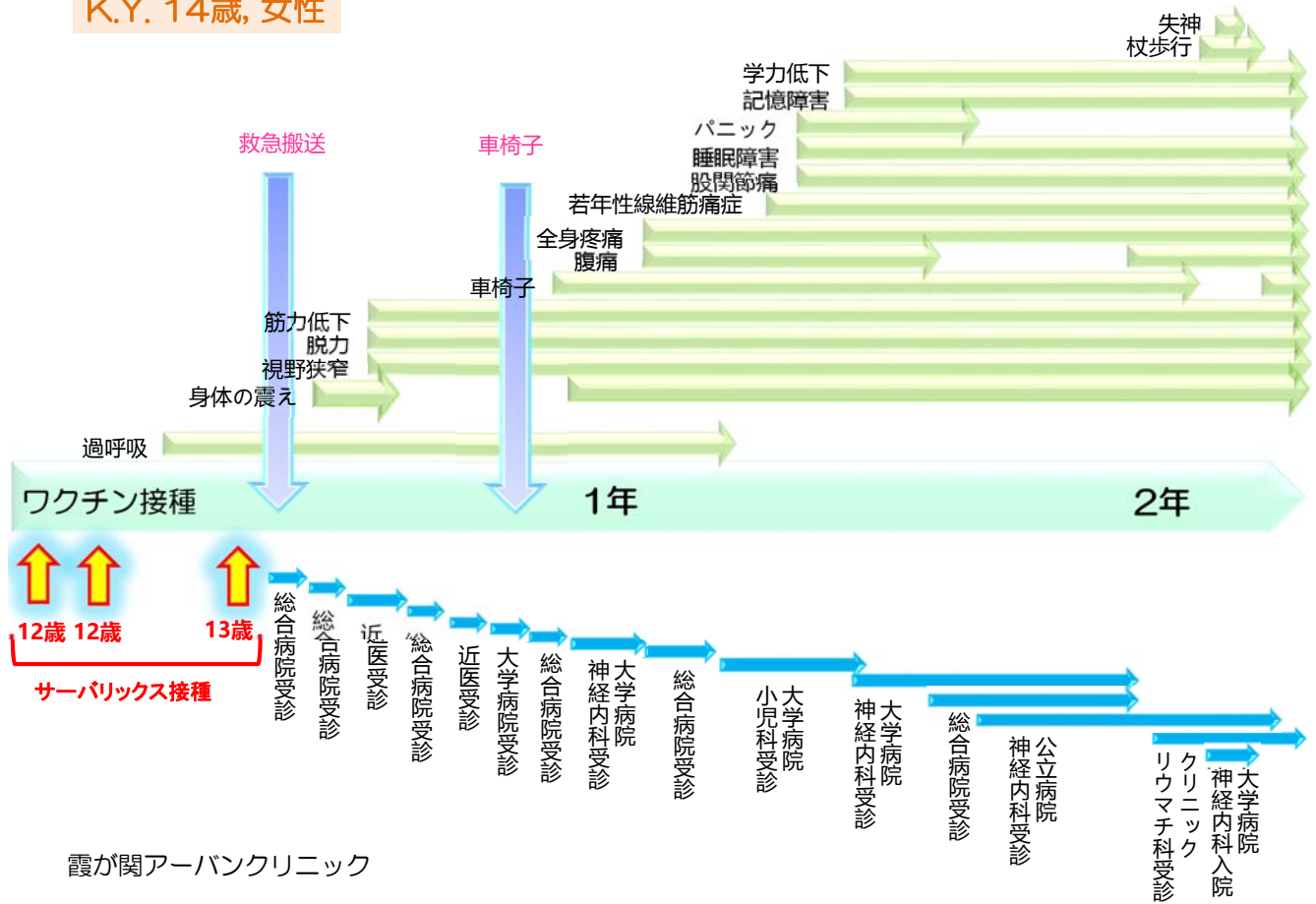


この後遺症の特徴：時間経過に伴う症候の進展と拡大

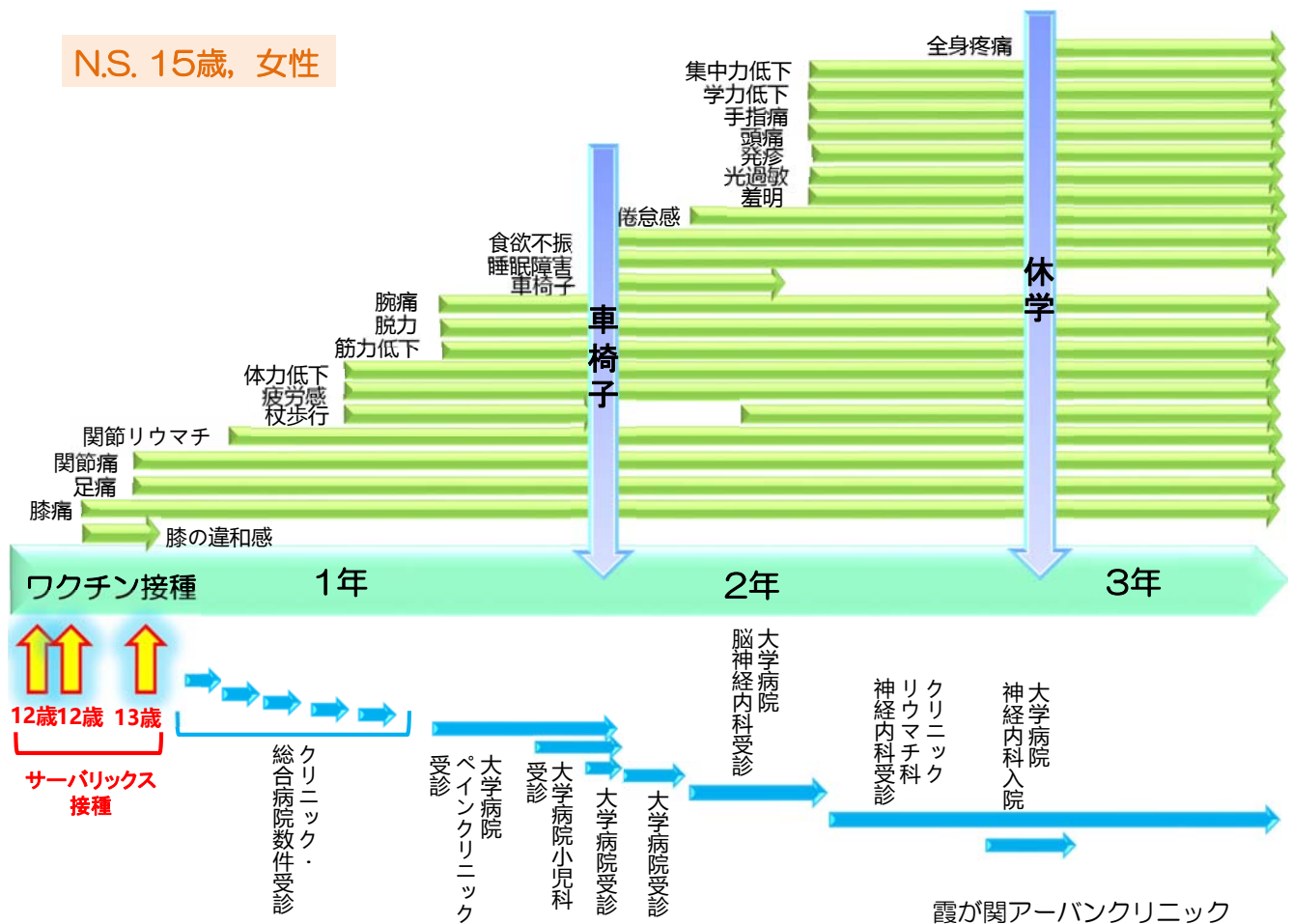


HANS: Human Papillomavirus Vaccine-associated Neuroimmunopathic Syndrome

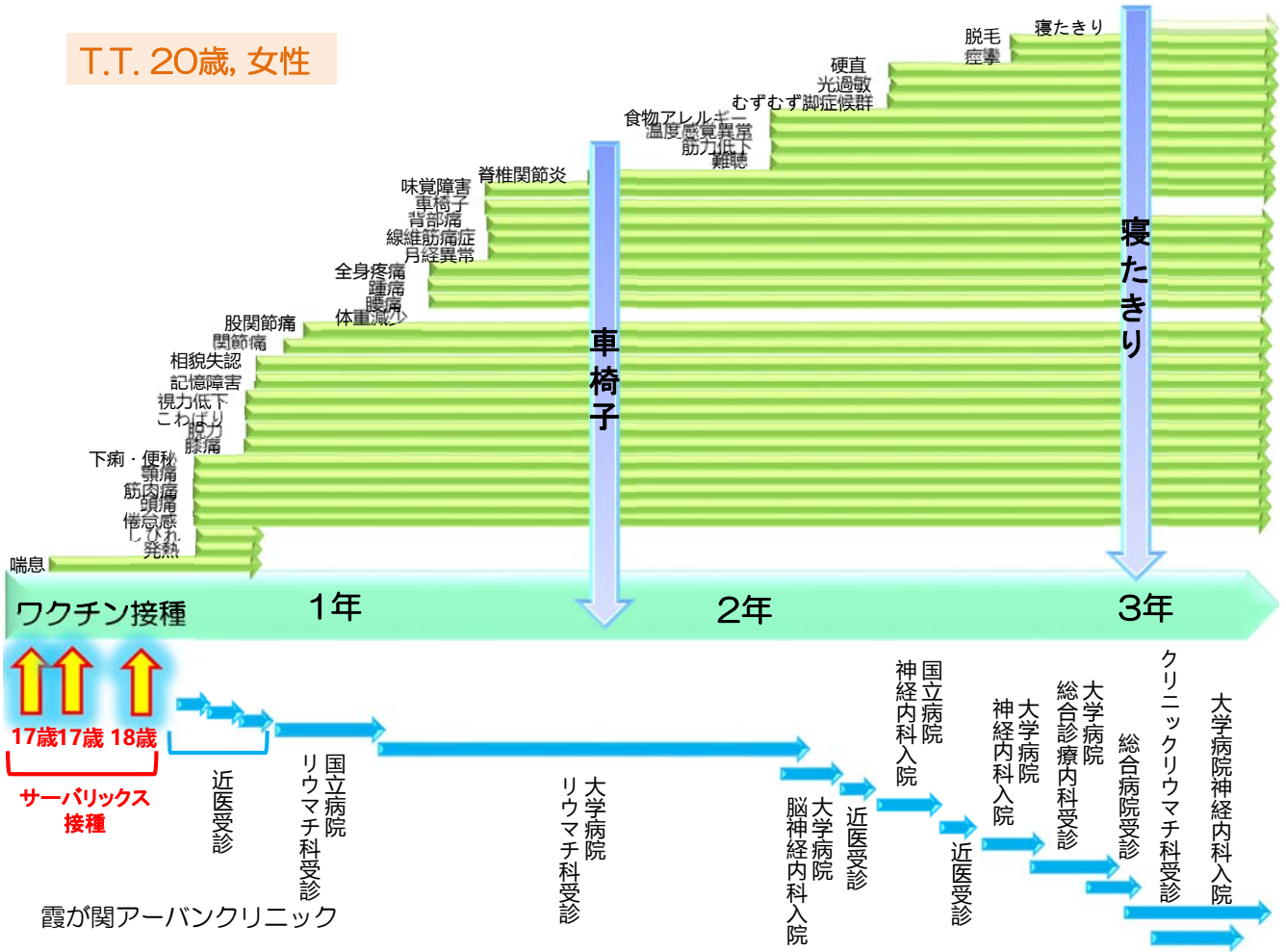
K.Y. 14歳, 女性



N.S. 15歳, 女性



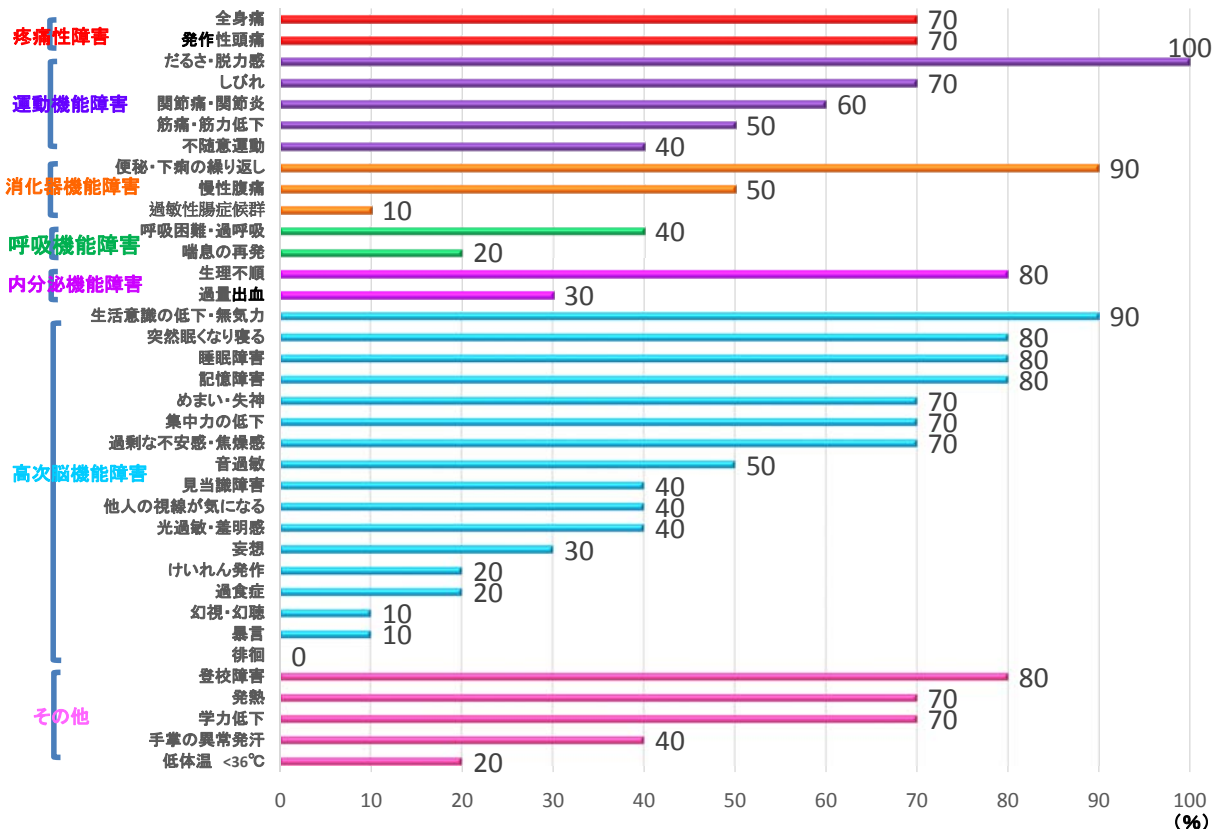
T.T. 20歳, 女性



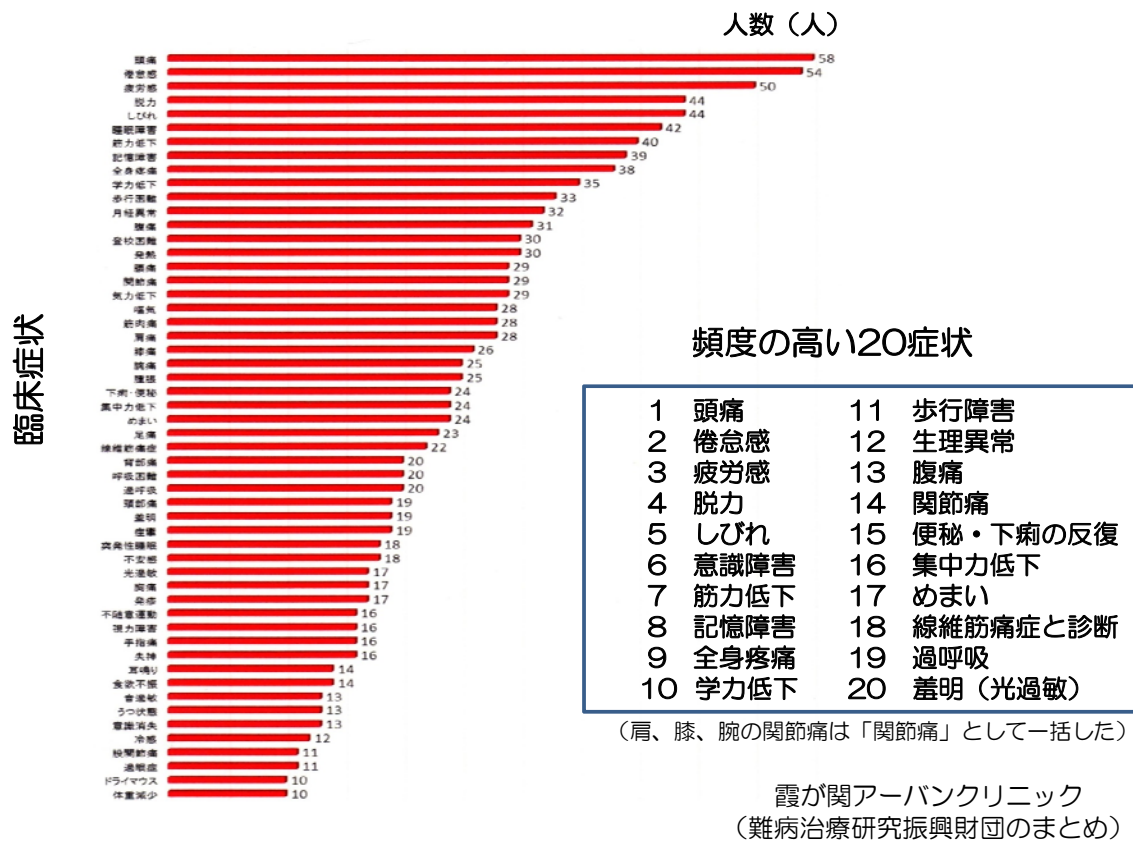
後遺症 (HANS): 臨床症状の症候的分類と頻度

(n=10)

横浜市立大学小児科



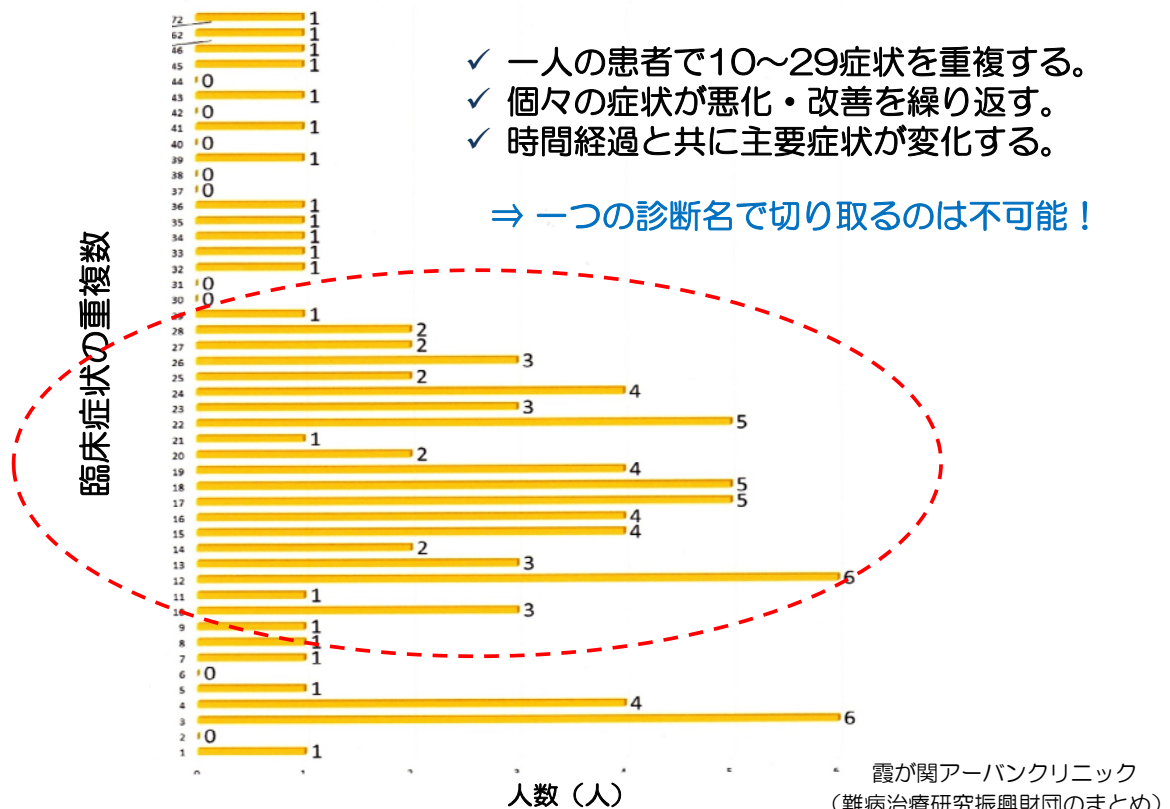
後遺症（HANS） 88症例の呈した臨床症状の種類と人数



ご本人の声を 宮森未琴さん（北海道）



後遺症(HANS) 88症例の症状の重複数



ご本人が描いた多彩な後遺症と人生が変わってしまう辛さ

★★2014年4月19日

福祉と医療・現場と政策の「新たなえにし」を結ぶ会

ことしもまた、新たな縁(えにし)を結ぶ会'14!

第3部 大研究・利益相反と癒着の構造

～学界・業界・政界・官界・メディア／利権としがらみ～

元NHK記者でいまは大学教授の隈本邦彦さんが
“森のくまさんでる”教授を名のって歩き回り、
サンデル教授の白熱教室風に(^_-)☆

基調報告 & コメンテーター

桑島 巖さん	循環器内科医／臨床研究適正評価教育機構理事長
別府 宏園さん	神経内科医／TIP 正しい治療と薬の情報代表
水口真寿美さん	弁護士／薬害オンプズパースン会議事務局長

コーディネーター

隈本 邦彦さん	江戸川大学メディアコミュニケーション学部教授／元 NHK 記者
---------	---------------------------------

特別ゲスト

北野 静雄さん	製薬研究者／大鵬薬品工業労働組合元中央執行委員長
---------	--------------------------

◆会場◆イイノホール

2014.4.19 SAT.



第1章 子宮頸がんワクチンに見る利益相反

検討委員は誰の味方? / 「専門家会議」の利益相反 / 政治家は、こう動く

宣伝に貢献したジャーナリズム / WHOあなたまで! / ロビイストはこう暗躍する

第2章 医療界が溺れてしまう構造

第3章 犠牲になる患者たち

第4章 メディアが共犯者になる…地獄への道は、善意の小石で敷きつめられている

第5章 癒着を引きはがす処方箋



3時間半、席を立つひとがいなかった夜の部

このシンポジウムの記録は、えにしのHP (「ゆきえにし」で、出てきます)の「ことしもまた「えにし」の会の部屋 2014」を
<http://www.yuki-enishi.com/enishi/enishi-00.html#2014>

2005年・子宮頸癌の「恐怖」を売り込む作戦を開始

これまでの経過

感染経路は性交渉
既感染者には効果なし
⇒ 性交渉前の女子がターゲット

- 2009年12月 サーバリックス(GSK社)販売開始
- 2010年11月 公費助成(緊急促進事業) (10歳～高校1年の女子)
- 2011年 8月 ガーダシル(MSD社)販売開始
- 2013年 3月 全国子宮頸がん被害者連絡会発足
- 2013年 4月 予防接種法改正・定期接種化 (10歳～高校1年の女子)
- 2013年 6月 積極的接種勧奨を一時的中止
- 2016年 7月 集団訴訟提起(東京、名古屋、大阪、福岡)
- 2021年 2月 シルガード9(MSD社)販売開始

「4月に再開」と知って
薬害訴訟原告団副代表 望月瑠菜さん(山梨)が記者会見
厚生労働省のクラブづめの記者が大勢参加していたのに
報道されなかった。なぜ???



国もメディアの真実を伝えないので被害者たちが
「ほんとうのことを知ってほしい」と

ポスターいっぱい運動

私が 子宮頸がん予防ワクチンを打つ中学生の時
看護師になる夢がありました

私も注射を打てるようになるんだ
という想いで

接種したワクチンの副反応で
ソフトテニスが出来ていた体が
急に 全身痙攣し歩けない体になりました

私には副反応なんて関係ないと思っていた

何度も後悔したからこそ
"あらゆる可能性"を知ってもらいたい

【子宮頸がん予防ワクチンとは何なのか】
【副反応と付き合った 10 年】

"選ぶと言う選択を、"

この言葉が
考えてもらえるきっかけになれば嬉しいです

2021.09.22
ゆうか



HPVワクチン 副反応を知ろう



副反応は多種多様な症状が重なって出ています。
1日の中でも症状に波があり詐欺扱いされることもあります。
副反応を認めない病院が多い為、副反応被害者は数少ない
遠方の病院に通院しています。
学校に行きたくても行けない、働きたくても働けない。
そんな生活がもう10年近く続いています。
定期検診をきちんと受けましょう。
HPV(子宮頸がん)ワクチンの副反応を理解したうえで
接種をご検討ください。

●HPVワクチンのほんとうのことを知って欲しい実行委員会2021

詳しくはこちら→



私たちの被害は終わっていません



知ってください
**HPVワクチン
副反応**

HPVワクチンのほんとうのことを知ってほしい委員会



キノホルムをやめたら……スモンがなくなった
 サリドマイド剤の発売をやめたら……フォコメリアの赤ちゃんが激減した
 ウイルスが生きている非加熱製剤をやめたら……薬害エイズは、なくなった
 健康局長通知が出たら症状発現が激減……それなのに、なぜ再開??

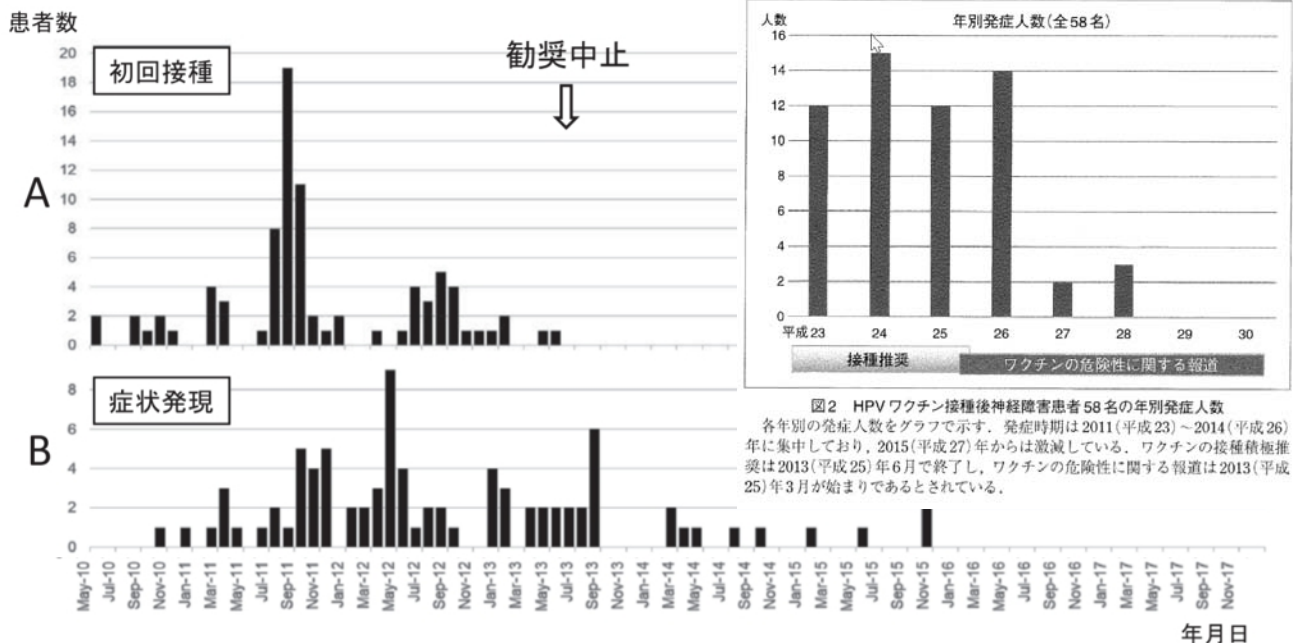


図4 子宮頸がんワクチン接種後副反応と診断された84名のワクチン接種時、症状発現時、副反応当方受診時の相互関連（文献18のfigure3に10名を追加した）

副作用は薬が起こす・薬害は人が起こす

- キノホルムの販売を中止したら……スモンという病気はなくなりました
製薬会社は「ウイルス原因説」をもちだして反論。被害者をふやす結果を招きました
- サリドマイドの発売をやめたら……フォコメリアの赤ちゃんが激減。
製薬会社は、「妊婦にも安全」と広告。メディアも厚生省も、海外の報告を無視。
- 海外より10カ月遅れたために防げたはずの被害児が約100人 生まれてしまいました
- 生きたウイルスが入っている非加熱製剤。やめたら……薬害エイズは発生しなくなりました
- 加熱製剤を当時つくれなかった日本の製薬会社を保護するために、
厚生省は危険な製剤の中止を2年送らせ、そのために、1000人以上が感染

・子宮頸がんワクチンの場合

治療薬と違って、打たれるのは、**健康な少女**たち

1学年60万人 費用1人5万円 1学年で300億円が

税金から製薬会社に

打った医師には、1人1万4000円が

・薬害を引き起こす四位一体 製薬会社・専門医・政治家・行政

細田博之・衆院議長（HPVワクチンの積極的勧奨再開を目指す議員連盟会長）⇒総理と厚生労働大臣に

「再開しないと期限切れで廃棄することになり、メーカーに迷惑」

公明党 副代表・松あきら議員が強力に推進

（議員の夫は、サーバリックスを発売する英国のグラクソ・スミスクラインの顧問弁護士）

（その後、公明党幹部のお孫さんが、子宮頸がんワクチン後遺症に。涙ぐむ幹部）



賢いの碑

命の尊さを心に刻みサリドマイド、スモン、HIV感染のような医薬品による悲惨な被害を再び発生させることのないよう医薬品の安全性・有効性の確保に最善の努力を重ねていくことをここに銘記する

千数百名もの感染者を出した「薬害エイズ」事件
このような事件の発生を反省しこの碑を建立した

平成11年8月 厚生省

子宮頸がんワクチン問題～社会・法・科学(みすず書房)

第13章 「無」から生み出された市場

金銭面だけをみれば、メルク社（日本ではMSD）とグラクソ・スミスクライン（GSK）社のHPVワクチンは成功を収めてきた。

2017年、メルク社は、世界でガーダシルとガーダシル9を23億ドル売り上げ、2016年の22億ドルを上回った。

同じ年、GSK社は、世界で1億3400万ポンド（約1億8600万ドル）を売り上げたが、2011年の最高売上額の5億600万ポンド（約7億800万ドル）に比べれば少なかった。

現在までに、この二つの巨大製薬会社は世界中に2億7000万回接種以上のHPVワクチンを流通させてきた。

ガーダシルは、メルク社が財務全体を健全に維持するうえできわめて重要である。メルク社の財務報告書（10-K）には、ガーダシルに未知の副反応が発見されたり、市場撤退したりすることになれば、会社全体の収支に悪影響が出ると記載されている。GSK社も同様に、サーバリックスが主力製品の一つであり、サーバリックスの売り上げは会社全体にとって重要であると記載している。

世界最大級の両社が今やその生き残りをHPVワクチンに依存しているとは、どういふことなのか。メルク社とGSK社はいかにして「無」から「市場」を生み出したのか。

(略)

「病気のブランド化」子宮頸がんへの恐怖を売り込む

FDAがガーダシルを承認したのは、バイオックスの市場撤退から2年も経たない2006年6月だった。ところが、メルク社の消費者に向けた直接広告(DTCマーケティング)攻勢が始まったのは前年2005年9月。承認2か月前のこ

子宮頸がんワクチン問題

社会・法・科学

メディア・コーポラ
キム・ワグネル・ブー
アイリーン・イオリ
原稿主筆 堀江



みすず書房

ゆきえにしネット

福祉と医療、現場と政策をつなぐホームページ

「子宮頸がん予防」？ワクチンの部屋

目次

○メディアが報じない1枚の写真……Webmagazine「月刊ライフサポート」2022年1月号

○「ほんとうのことを知ってほしい」ポスターいっぱい運動

○子宮頸がんワクチンと私の37年……「子宮頸がんワクチン問題～社会・法・科学」出版記念勉強会にて

○後遺症の多彩な症状～2014年以降に発生した症状の進展と拡大・日本産婦人科学会 2014

○橋田俊平横浜市立大名誉教授と聴講生の往復書簡 2015.6

○「薬害4つの構造」と「三位一体」……徳田節之弁護士

「ワクチン」が、「ふつうの薬」と違って製薬会社に莫大な利益をもたらす。そのわけは、。

薬害訴訟を支える金通帳 2021/10/25より

○厚生労働省健康局長名で、都道府県知事に「積極的勧奨中止」の勧告が出されると、被害者
児島大学の論文で明らかです。接種再開で被害者が激増することは確実です。そのとき、自民党
とができるのでしょうか？

薬害スモンでも、1970年9月にキノホルムの販売中止をした直後から、スモン患者の新規発生がほとんどなくなりました。こ

○日本女性を死なせる病は、多い順に乳癌、大腸癌、肺癌、そして、ずっと下がって子宮癌

しかも、検診が早期発見できるのに、「子宮癌が恐ろしい。危険があってもわが子にワクチン」と思い込んでいる人がいた

とw(´o´)w

○ワクチンの前に「子宮頸がんへの恐怖」を売りこむというMSDの手法

その製品が欲しいと思わせる、それを自分自身の考えたと信じ込ませる

「子宮頸がんワクチン問題～社会・法・科学」(みすず書房)

の第13章「無から生み出された市場」から採りました。

○マスメディアが報じなかったのはなぜ？

2021.10.1 副反応即死のあと、厚生労働省内の記者クラブでおこなわれた記者会見の発言を記録しました。被害女性たち

○「子宮頸がんワクチン問題～社会・法・科学」……別府宏樹監訳

世界中に不安だと伝播されている写真集「ノーベル賞受賞者が語る

home

ゆきえにしネット<http://www.yuki-enishi.com/>
をクリックするとこのような情報が

○「HPVワクチン関連神経免疫異常症候群(HANS)とautoimmune/inflammatory syndrome induced by adjuvants(A S I A)」・アレルギー・免疫25巻6号・橋田俊平et al 2015.6

横浜市立大学産科小児医療学名誉教授・橋田俊平先生と公開質問状の往復メール 2015.6

○取り残された被害少女たち 朝日新聞社会部 斎藤智子さん(週刊朝日 2015.5)

○「子宮頸がんワクチン」被害、デンマークの少女にも

「子宮頸がんワクチン」と称するものが、薬の予防にならないばかりか、場合によっては、認知症のような症状まで起こすことを警告してきまし

そんな被害は出ていない」というのが推進を唱える方々の主張でした。それを覆すTBSのnews23で放映された映像です。国立フレデリクスベア

実験証明を始めています。

○ワクチン世界市場の「皇別り場」となった日本／推進するWHOの影にゲイツ財団と製薬企業……太田美智子さん

こちら]

○「子宮頸がんワクチンは脳神経を壊す」—自己免疫疾患患者が実名告発 2014.7.10 週刊文春……ジャーナリス

◇ とんとん拍子の公費助成・定期接種化の背景／子宮頸がん予防ワクチンの「主役」はロビイストとPR関係会社か

金曜日2013.10.4]

動画「市町村長は、接種の積極的な勧奨とならないよう留意すること」厚生労働省健康局長 2013.6.14

◇ 「被害を生み出すワクチンビジネス」江戸川大学教授 隈本邦彦さん

◇ HPVワクチンの効果と害……「医薬品・治療研究会・正しい治療と薬の情報」

日本では、製薬会社から広告費や献金をもらっていない医薬品関係の雑誌は、ほんのわずかしきありません。

編集長の別府宏樹医師はスモン以来、薬害問題の解決、医薬品の適正使用、エビデンスに基づいた正しい治療の普及に熱心に取り組んできた神経内科

◇ 子宮頸がん予防接種／効果薄い／副作用調査すれば数値 東京新聞2013.5.12

◇ 子宮頸がんワクチン被害／受けやすい検診の確立を 毎日新聞2013.4.10

◇ 子宮頸がん予防ワクチンキャンペーンの「危うさ」 週刊朝日2010.4.16号

fjm2MLの私の投稿に共感してくださった金沢大産婦人科講師(当時)の打出直義さんが、HPV研究や予防ワクチン開発に取り組んできた金沢大

んの協力をえて驚きをなすしてくださりました。

○「専門家会議」とモナコの国際学会招待への懸念 2010.2.6 fjm2MLにゆき投稿

おまけ **自己紹介** 昔は医学記者でした

もとは、生命科学の**研究者志望**。学者の世界のドロドロに幻滅して。朝日新聞へ。
当時は「新聞記者は男の仕事・女はいらない。」という時代
ただ、男子禁制のオリンピックの女子選手村で、他社に抜かれたら一大事
しかたがない、女をとるか〜 各社1963年だけ女性を採用

科学部へ。「みんなの健康」を10年

「善玉コレステロール」という言葉を発明o(^^o) (o^^o) (o^^)o

調査報道「日赤産院名誉院長連続手術ミス事件」

和田心臓移植の真相は、学会誌がきっかけ。

薬効についての「雨乞いの論理」「3たの論理」追放記事

製薬会社・広告部との攻防

インフォームド・コンセントと利用者民主主義

論説委員になって厚生行政も担当

「寝たきり老人」という言葉が日本にしかないことを発見w(°o°)w

「痴呆薬を洗い直せ」キャンペーン」etc.

